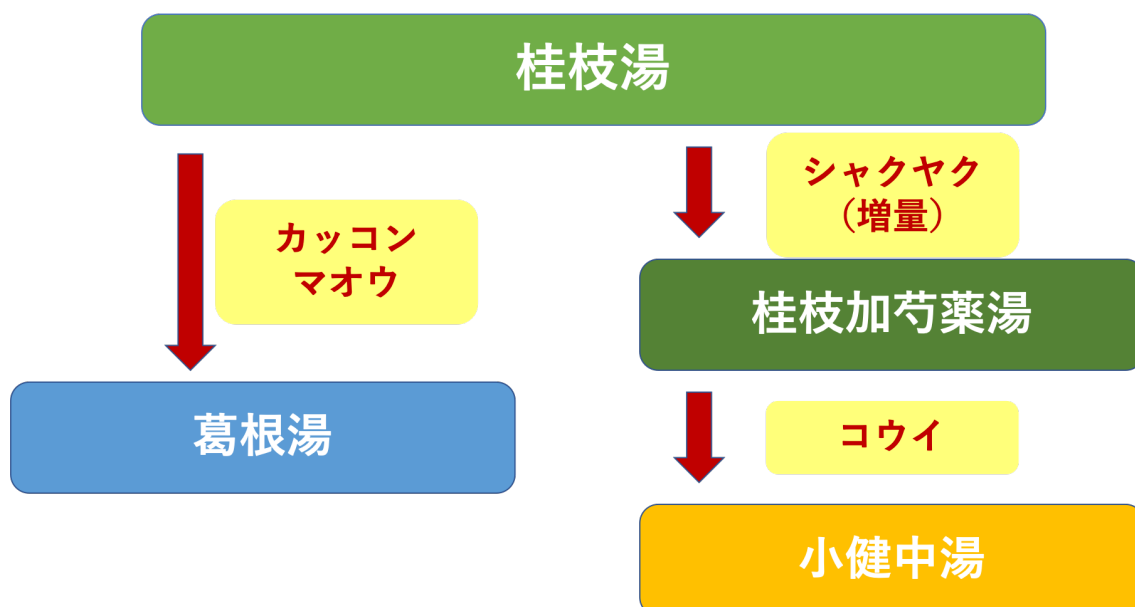


「葛根湯」と似ている漢方



漢方薬には入っている生薬が似ているものがたくさんあり、

生薬を少し足したり引いたりしただけで違う名前になっていたりします。

(「逆流性食道炎に対する漢方治療」の項も参照)

ここでは一例を挙げてみましょう。

1) 桂枝湯

「^{けいしとう}桂枝湯」 という漢方薬があります。

あまり聞いたことがない方も多いと思いますが、実は漢方薬の古典でも最初に載っている、**風邪に対する基本処方**です。

悪寒・発熱があり、汗をじっとりとかいている、**風邪の初期**に良く効きます。

桂枝湯に入っている生薬は

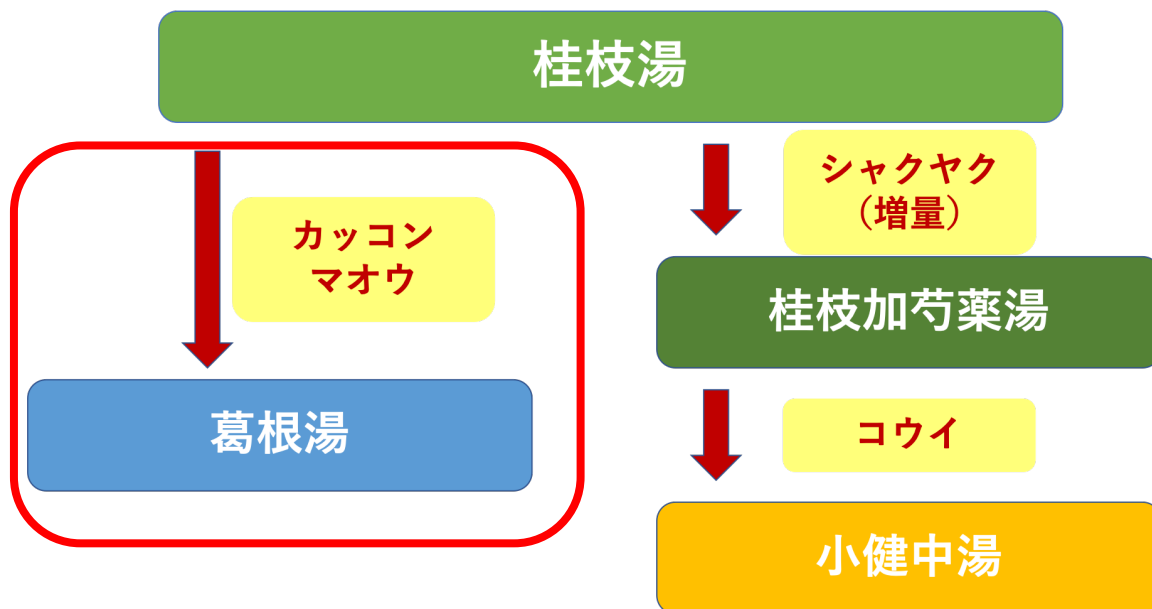
ケイシ・シャクヤク・カンゾウ・タイソウ・ショウキョウ

の5種類です。

※ちなみに桂枝はシナモンのこと、たいそう大棗はナツメの実、しょうきょう生姜はその名の通り生姜です。

全体的に温めて表面から悪いものを出すような薬ですが、

高齢者など、少し体の弱った人が良い適応です。



2) 葛根湯 = 桂枝湯 + 葛根・麻黄

桂枝湯に、カッコン・マオウという2種類の生薬を追加すると、

^{かっこんとう}
「葛根湯」になります。

葛根湯は皆さんおなじみだと思いますが、

^{かっこん}
葛根には発汗・解熱と筋肉のこわばりをとる作用、

^{まおう}
麻黄にはやはり発汗作用と咳などの呼吸器症状を抑える作用があります。

※麻黄にはエフェドリンという神経を興奮させる成分が含まれており、心臓の

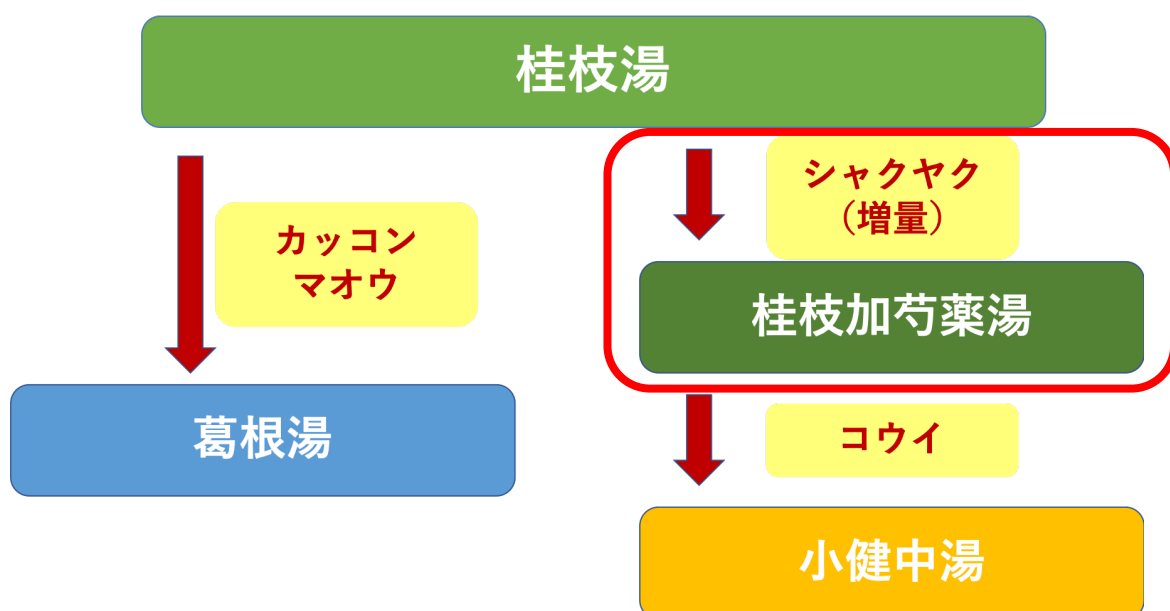
弱い方にはあまり使わない方が良いと言われています。

葛根湯は桂枝湯よりも体力があり強く病気に反応している人、

症状としてはあまり汗をかかず熱が高く、首筋にこわばりがある人が
良い適応です。

なお、葛根湯に「センキュウ」と「シンイ」の2種類を加えると、その名の通

り「かっこんとうかせんきゅうしんい葛根湯加川芎辛夷」という薬になり、副鼻腔炎などに使用されます。



3) 桂枝加芍薬湯 = 桂枝湯 + 芍薬 (增量)

さて、最初に示した通り、桂枝湯にもシャクヤクが入っていますが、

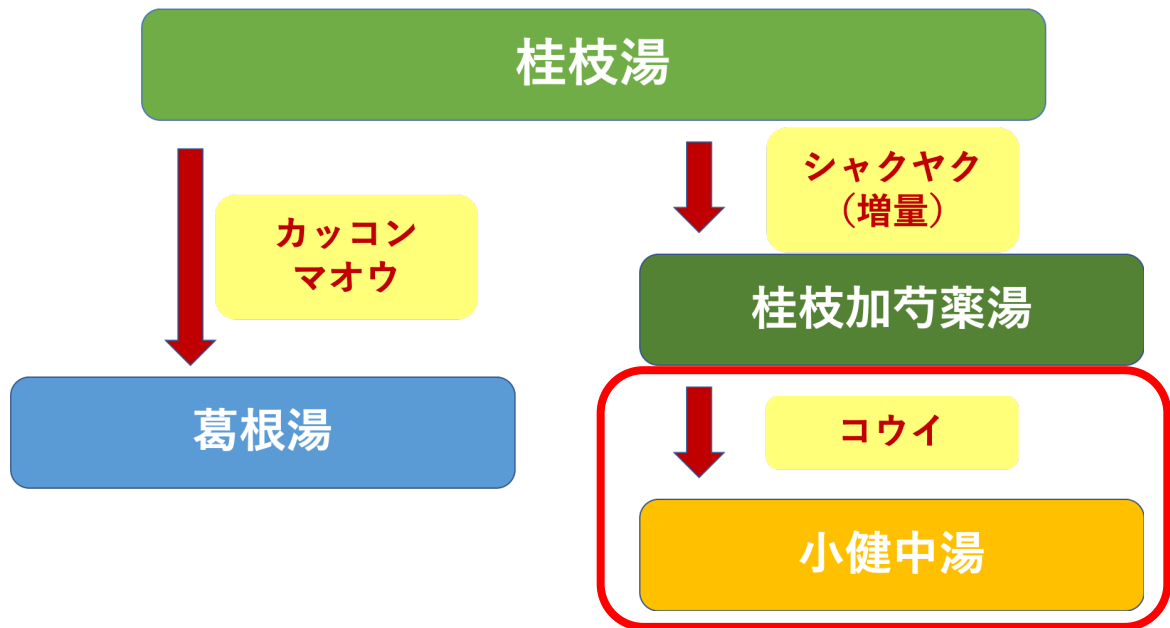
このシャクヤクの量を倍に増やすと名前が変わり、

けいしかしゃくやくとう
「桂枝加芍薬湯」と呼ばれます。

同じ構成でただ量が増えただけなのに名前が変わるのはちょっと面白いですね。

^{しゃくやく}**芍薬**にはお腹の緊張を緩め、痛みをやわらげてくれる作用があります。

この量を増やすことによって、**風邪などでのお腹の痛み**に対して効果を発揮します。



4) 小健中湯 = 桂枝加芍薬湯 + 飴

さらに桂枝加芍薬湯にコウイという生薬を加えると、

しょうけんちゅうとう
「小健中湯」という漢方薬になります

こうい
膠飴 は、麦芽糖で作った飴のことです（甘いです）。

やはりお腹の痛みをやわらげる作用があります。

小健中湯はどちらかという**と慢性的なお腹の痛み**に使うことが多く、**やや神経質で胃腸の弱い方（特に小児）**の腹痛によく使います。

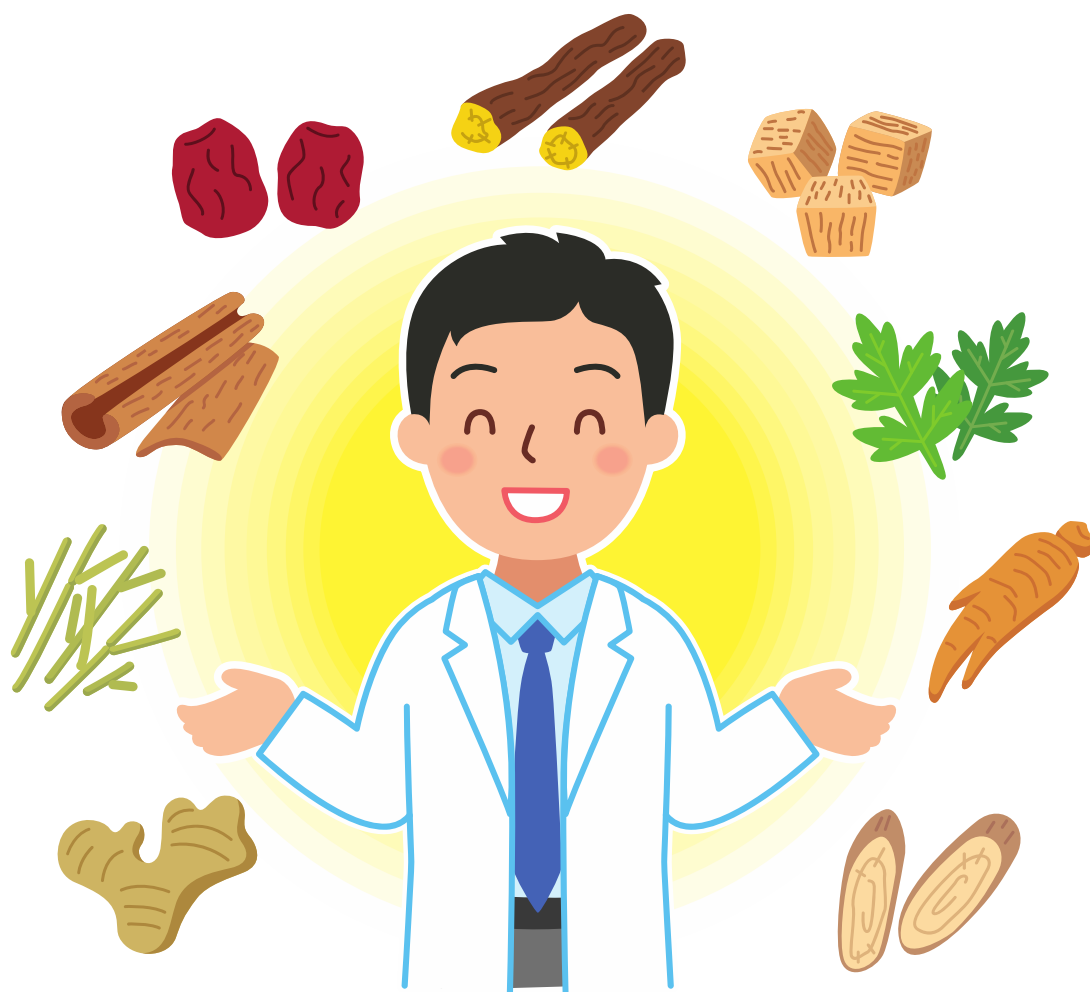
余談ですが、小健中湯と似た名前の有名な漢方薬に「だいけんちゅうとう大建中湯」があります。やはり腹痛などに使いますが、入っている生薬はだいぶ違います。

この様に、

名前が似ていても入っている生薬が違う漢方薬

名前が違ってても似た様な生薬が入っている漢方薬

があるところが、面白いところでもあり、混乱しやすいところでもあります。



漢方治療に興味のある方は消化器センター医師までご相談ください。